

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102295
法人名	医療法人社団 仁和会
事業所名	むつみ苑グループホーム池内の家
所在地	宮崎市池内町吾他1096番地 (電話)0985-39-6623

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤数	8人

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,360 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 91.1 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内病院 小村歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は静かな住宅地に民家をおもわせる木造平屋造りで親しみやすい雰囲気をもっている。庭続きにもう一つのホームと、隣接して老人保健施設がある。母体は医療施設であり医療と連携をとりやすくしている。管理者、職員は利用者の尊厳を守り利用者本位に『日本一あたたかい家庭』を理念としている。音楽療法を取り入れたり、毎月1回は利用者の希望を聞いてドライブに出かけ帰りに外食を楽しんでいる。近所の喫茶店にも出かけ店の人と利用者は顔なじみの良い関係になっている。職員は利用者に寄り添い楽しく生活できるようにと支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題ではないが、地域への広報・啓発として「事業所たより」等でホームの成果や理念を伝えていくような取り組みについて、引き続き、検討してほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価を実施するに当たり管理者、職員は評価の意義とねらいについて理解し全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地区の民生委員、包括支援センター職員、家族、職員で3ヶ月に1回開催している。メンバーに地区の自治会員など幅広く呼びかけを行い運営推進会議を充実させてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は家族の意見・意向・苦情について面会時何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努力している。意見や意向については管理者、職員で話し合いを持ち改善策を立てて家族に返事をするようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は民家の中に位置し近隣の方との挨拶は日常的に行い、すぐ近くの喫茶店の利用や散歩の途中に保育園があり園児とのふれあいを利用者はことのほか喜ばれている。又、事業所の夏祭りに隣人や地区の方を招待して交流できるように努力している。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『日本一あたたかい家庭』を目標に具体的には11項目の文言を掲げている。玄関、事務室、キッチンなど家族やスタッフの目に付きやすい場所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎朝の申し送りの中や、毎月1回の職員会議の中で理念についての話し合いを持ちケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は民家の中にあり、近隣の方との挨拶は常に行い、すぐ近くの喫茶店の利用や、散歩の途中に保育園があり園児との交流など利用者はことのほか喜ばれている。また、事業所の夏祭りに隣人、地域の方を招待して交流する事に努めている。		事業所が更に地域と相互的なかかわりを持てるように地区の自治会の加入なども検討されるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者職員は評価の意義について理解し自己評価について全員で取り組んでいる。外部評価についても会議の中で見直しをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者は包括支援センター職員、民生委員、家族、職員で3ヶ月に1回実施されている。事業所から報告や行事の案内など行っている。		地区の自治会員などの参加も呼びかけ、運営推進会議を充実させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する研修会など積極的に参加している。今年度新たに企画された介護キャラバン隊にも加入し、ケアサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や、電話を利用して暮らしぶりについて報告している。健康状態に変化があるときはその都度電話で報告している。金銭管理については出納帳を作成して面会時に報告しサインを貰う体制にしている。	○	事業所での暮らしぶりの様子などをホーム便りとして家族に届けてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者の名前を説明している他にも公的窓口も説明している。意見や意向については全員で検討し家族に説明している。面会時にも話していただけるように雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代のときは新入職員は出来る限り触れ合う時間を多く持てるように又、夜勤などダブル勤務など勤務表を工夫し利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は常勤・非常勤を問わず法人内外の研修会に数多く参加している。研修報告書で報告する体制を整え事業所内の伝達講習も行い学習意欲に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加し交流する機会が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族と一緒に事業所の見学に来ていただく、または入院先や家庭訪問に伺うなどなじみの関係をつくるように工夫している。初対面での利用はしないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とする調理、調味盛り付けなど自主性に任せて出来ることを喜んでしてもらえるように職員は見守り一緒に楽しんでいる。おせち料理など利用者の得意とする分野では職員が教えて貰っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝ケアするなかで又健康チェックで本人の意向を把握して本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本意、家族の意向に添ったプランを立案し、サービス担当者会議の中で検討したプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については3ヶ月に1回の見直しが行われている。状態に変化が起こった場合はその都度の見直しをしている。モニタリングは1ヶ月に1回関係者で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月2回音楽療法士を招いての音楽療法をとりいれている。同一法人の介護老人保健施設や併設のグループホームの行事に招待される機会があり数多く参加している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。生活の様子や健康状態についての情報提供をかかりつけ医にこまめに報告するようにし、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	健康状態に医療が必要になった場合やターミナル期になった場合の方針については入居の段階から家族との話し合いがされ事業所が対応できるケアについて説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや分かりやすい説明を行い支援している。記録物は人目につかない事務室に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法やレクリエーションなど本人の意向で参加したくないときなど決して無理強いしない対応をしている。ドライブのときなど本人が行きたくない場合は職員がひとり残って留守番したりして対応する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り、買い物調理を一緒にしている。献立に利用者の食べたいものを取り入れたりしている。調理、盛り付け、あとかた付けなども職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴支援が実施されている。湯加減や入浴時間も利用者本人の希望に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後皆で歌ったり、小鳥を誘う巣箱を職員と一緒につくり庭に設置したり、花壇に花を植えたり、オルガンの弾ける方はオルガンを弾くなど一人ひとりの生活歴に応じた支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1回は公用車に乗って花見や公園などのドライブをして同時に外食も楽しんでいる。日常的には近隣の散歩や、喫茶店にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中はかけないケア対応がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震想定や防火訓練を年2回定期的に実施している。宮崎市消防局の実施する防災研修会に参加している。自衛消防組織も確立し火災予防のチェックリストで毎日点検するなど積極的な活動がされている。		非常災害に備え非常食の備蓄なども今後検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量について把握され個人票に記録されている。水分補給にゼリーやフルーツなども工夫されている。体重のチェックは1ヶ月に1回行われている。食事のみで排便のコントロールが行えており下剤の使用者はほとんどいない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはキッチン、和室とつながり明るく広々としている。廊下や壁には行事やドライブに出かけた時のスナップ写真が飾られ利用者や家族に大変喜ばれている。又和室に飾られた雛人形も楽しい雰囲気を目を楽しませている。庭に咲いている色とりどりの花や近くの公道を通る車を眺めることもできて居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の家庭で使っていたソファやオルガン、馴染みの使い慣れたものが持ち込まれて、居心地良く過ごせる工夫をしている。		